

## 尾瀬ヶ原山行報告

【山行日】2015年5月10(日) 晴れ時々曇り

【集 合】 岩舟支所P AM 4:00

【費 用】 マイカー2台 : 4,000円

【メンバー】 A班 CL:鈴木、香川、梶内、関、  
谷口、松舘

B班 CL:大西 島田、中田、福田々、渡辺

【コースタイム】 A班: 岩舟支所P4:00=鳩待峠

P6:30/6:45~山ノ鼻 8:00~竜宮小屋 9:30~

見晴十字路 10:10~白砂峠 11:40~沼尻

12:10/12:45~長蔵小屋 13:45~三平峠 14:15~一

ノ瀬 15:15~大清水 16:15/16:30=岩舟支所P18:30

B班: 山ノ鼻 8:00~竜宮小屋 9:45~ヨツピ橋 10:15~三叉路 11:10~山ノ鼻 12:00/12:40~

鳩待峠 13:50=大清水 15:30



も無くタクシーも無い。鳩待峠への分岐に「鳩待峠へ通行可」の看板があったので、鳩待峠へ直接車で向かった。T口さんの話では、先週までは至仏山へ入山が出来たので、多くの登山者や山



残雪の尾瀬ヶ原を縦走し、尾瀬沼から大清水へ抜ける超ロングコースを計画した。

自信のない人は、尾瀬ヶ原の周遊コースを歩き、鳩待峠まで戻って大清水まで迎えに来てもらう2コースに分け歩いた。

天気予報は晴れ時々曇りだが、気温が低く10mの強風が吹く予報でモチベーションは上がらない。戸倉の駐車場に着くと、車は1台



スキーヤーで車が一杯だったが、今週から至仏山の入山規制がされたので、物好きな我々くらいしかいないとの事。鳩待峠の駐車場もガラガラに空いていて、我々の車を入れて数台しか止まっていなかった。車を降りて準備するが、時折強風が吹きとても寒い。



峠の休憩所でストレッチを済ませ、B 班は軽アイゼンを付ける。A 班は雪の状態を見て、硬くないのでアイゼン無しで出発する。最初は下りなので、ゆっくりと慎重に降りて行く。谷間に入ると風は感じなくなり、左手に雪の至仏山が見えてくる。木の葉が落葉し、雪で目線が高くなるのでいつもよりも大きく見える。傾斜が緩くなると、水芭蕉がいち早く開花する湿地に着くが、花は雪解けの箇所はまだ顔を出したばかりの状態だった。

川上川を渡ると間もなく山ノ鼻に着き、トイレ

休憩をとる。

ここから B 班と別れ、A 班が先行する。

尾瀬ヶ原はまだ雪に覆われ、雪原の中を歩くようになる。

木道は所々顔を出し、直ぐに雪に覆われているので木道の延長を予測して歩かないと踏み抜いてしまう。晴れ間が出て暑くなるが、時折風が吹くと寒いので上衣は脱げない。誰もいない尾瀬ヶ原を楽しめるのはこの時季だけ。下の大堀川のビューポイントで水芭蕉と至仏山を写真に収める。

水芭蕉はまだ開いたばかりの可愛い花だが、雪の至仏山を背景にとても良く似合う。

竜宮小屋で休憩をとり、トイレを済ませ果物や菓子でエネルギー補給。若い連中は写真撮影に夢中で、ジャンプしたりポーズをきめたりとても楽しそう。



竜宮を過ぎ、下田代に入ると燧ヶ岳が大きく迫ってくる。単調な雪原歩きも、燧ヶ岳を正面に見ながら歩けるので楽しい。見晴十字路に着いたが、小屋の方達は見えず登山者が一人出発の準備をしていた。小屋の間を抜け樹林帯に入り、ここからが本日のメインルートだ。ルートファインディングと体力を要する、上級者のみが歩けるコースだ。ほとんど人が入っておらず、マークを頼りに道なき道を進んでゆく。皆さん慣れない雪山歩きに少々疲れ気味。白砂峠手前で休憩をとり、菓子を食べていると女性2人の登山者が降りて

きた。何処まで行のか聞くと、竜宮小屋に泊り明日鳩待峠まで行くと言う。すかさず T 口さんが、「一日で大清水まで歩く者好きは我々しかいないですよ」と突っ込みを入れる。白砂乗越から白砂田代を抜けると、尾瀬沼はもうすぐだ。沼尻に着くと皆さんから歓声が上がった。尾瀬沼が雪と水が、太

陽の光線の具合でいくつもの色に輝き、湖面のグラデーションが素晴らしい。誰もいない、自分たち



だけの素晴らしい光景に酔いしれる。T 口さんも「連れて来てもらって本当に良かった」と感謝していた。

小屋の縁側を借りてランチタイム。尾瀬沼の絶景を見ながら食べる焼きそばとおにぎりは、なぜか今までで一番美味しく感じた。

ここから長蔵小屋への道も小湿原を横切り、アップダウンが結構あり歩きにくい。

大江湿原の大江川に架かる橋が、壊れていて通行禁止になっていた。近づいて良く見ると、

静かに渡れば問題なさそうなので、自己責任で渡ることにした。ビジターセンター隣のトイレに寄り、入口の尾瀬の名水をボトルに入れて三平下へ向かう。尾瀬沼の畔を歩く道から、燧ヶ岳が沼の上に聳える姿はひととき素晴らしく、写真に収める。三平下から20分登ると、大きな案内板がある三平峠に着く。峠からは南に稜線をゆるやかに下って行く。左の展望が開けた所が三平見晴で、直ぐに急な下りとなる。



南側の為、雪の量はだんだん少なくなり、所々残雪が消えるようになる。

左右に小さく曲がりながら降りると、林道に出てこの道を横切って再度山道に入った所が岩清水だ。ぐんぐん高度を落し、冬路沢を渡ると道が広くなり川沿いを下って行く。石垣の間の階段を下ると広い林道に出る。休憩舎がある一ノ瀬である。ここからは長い林道歩きになり、単調な歩きに不満が出てくる。文句を言いながら50分歩くとゲートが

見え、大清水の駐車所に着く。山ノ鼻で分かれたB班と再会しお互いの健闘を称え合う。

皆さんハードなロングコースを歩き通した満足感と達成感で満たされ、充実した山行となった。